

別記様式（第5条関係）

会 議 録

会議の名称		令和6年度 第6回行政評価委員会
開催日時		令和6年11月12日(火) 午後7時00分から 午後9時00分まで
開催場所		市役所本館2階大会議室
委員名		(1) 出席委員 加留部貴行、橋内京子、木本圭子、芹野千佳子、中川孝晃、山下永子、近藤春生 (2) 欠席委員
所管課職員職氏名		事務局 経営企画部長 花田 積 経営企画部経営戦略課長 向井泰博 経営企画部経営戦略課経営戦略係長 山本素子 経営企画部経営戦略課経営戦略係 首藤春風 担当課 都市整備部長 長野健二 都市整備部都市計画課長 安永紳一郎
会議	議 題 (内 容)	・まちづくり基本構想の施策に関する評価② 4-2,暮らしやすさを実感できる生活基盤を整備する
	公開・非公開の別	☒ 公開 ☐ 非公開 ☐ 一部公開
	非公開の理由	
	傍聴者の数	4 名
	資料の名称	・資料1 施策管理シート・事務事業評価(4-2)
会議録の作成方針		☐ 録音テープを使用した全文記録 ☒ 録音テープを使用した要点記録 ☐ 要点記録 記録内容の確認方法
その他の必要事項		

審議内容 （発言者、発言内容、審議経過、結論等）

20241112 第6回行政評価委員会会議録

1. 会長あいさつ

会長)

お忙しい中ご参加いただき感謝する。

この場は仕分けを行う場ではなく、より良い方向に進むよう対話を行う場である。取り扱うのは施策であるため、細部にこだわるより包括的に見ていきたい。また、特に困っていることや悩んでいることをお聞きしたい。

2. まちづくり基本構想の施策に関する評価②

【前半】

担当課)

市民の皆様からは既存の施設やインフラを維持管理することが一番に求められていると考えている。加えて人口増加に伴う新たな問題として、交通量の増加による混雑、雨水の排水、公共交通や物流の運転士不足などがある。また、災害時の被害を最小限に抑えるためにも現存施設（橋や道路等）の維持管理に力を入れている。国道や県道については国、県に相談しつつ適正な管理を行っている。

施策の目標について、暮らしやすい生活基盤が整っている市民の割合や公共交通の利便性について満足している市民の割合が低い。道路等は地域からの要望や職員が見つけた危険箇所について、危険性の高いものを優先して補修を行っている。しかし、地域から上がっている要望のうち令和5年度に対応できたのは63%程度であるため、生活基盤に対する満足度が低いのではないかと推察している。また、公共交通は西鉄バスやJRなどが運行しているが、運転士不足や新型コロナウイルスの影響による生活スタイルの変化（在宅ワーク、ネットショッピングなど）による利用者の減少等から、利便性の向上には取り組めていない。市のコミュニティバスも市民の意見を聞きながら改正等をしているが、距離や便数、他機関との接続といった要望に対応できていない。

空き家について、不動産市場では比較的上手く流通させられているが、農村部などは上手く回っていない。そこで、今年5月に津屋崎空き家応援団、古民家再生機構という団体と協定を結び、空き家の利活用に関する取組を進めている。

道路橋定期点検のサイクル、道路橋長寿命化工事の実施数については、高速道路の管理の難しさ（時間帯、交通規制など）や工事費の高騰により目標達成に至っていない。

会長)

委員の皆さまからご意見、ご質問をいただきたい。

委員)

満足している市民の割合が基準値から著しく低下している理由はなにか。また、対策はあるか。

担当課)

地域別に分析したところ、生活基盤の満足度に関しては勝浦地域、地域交通については勝浦地域、津屋崎地域、上西郷地域が大きく低下している。理由としては、新型コロナウイルスの影響、西鉄バスの減便などが考えられるが、令和3年度に行ったコミュニティバスの路線全再編も含まれると認識している。路線再編については、主に勝浦地域から使いにくくなったという意見をいただいていた。そのため、令和5年度に勝浦線、令和6年度に勝浦線、津屋崎線、福岡周回線の見直しを行った。今後も地域の皆様の意見を聞きながら改善していきたい。

委員)

実際にコミュニティバスを活用している。路線の見直しはやむをえないものと思うが、路線見直し以外に今後検討していることはあるか。

担当課)

国の交通施策として、デマンドバスやライドシェアにより「乗りたいときに行きたいところまで行ける」を実現することが推進されている。これらを導入できないかということは検討している。しかし利便性が上がる一方でコストも上がるため踏み切れず、導入の予定はない。宗像市、古賀市、宮若市など周辺自治体でもデマンドバスを導入しているため、それらの成功点、失敗点を見極めつつ福津市に最適な形を模索したい。

委員)

検討しているという裏側が見えなかったが、今回聞いたことは収穫であった。

委員)

コミュニティバスの路線再編はどのような変更だったのか。

担当課)

勝浦線については、令和3年度以前は往復運行で運行距離も長いため、時間がかかり時間がかかることにより本数が少ないといった課題があった。そこで、令和3年度に一方向周りに変更し一便あたりの時間短縮を図った。しかし、往復運行を使い慣れている方からは使いにくいという意見が上がった。そこで意見交換の結果、時間がかかること、便数が減ることを承知していただいたうえで往復運行に戻した。

委員)

運賃はいくらか。

担当課)

現金は定額200円、キャッシュレス決済(WAON)では定額180円である。

委員)

運賃を上げる検討はしたのか。

担当課)

周辺自治体の様子、民業圧迫とならないことなどを踏まえて検討をしたことはある。しかし、前回改定したのが令和3年度であるため、1, 2年での改定は望ましくないということで改定には至らなかった。また、運行経費のうち運賃を除いた額が委託料となるため、運賃を上げても事業者の儲けにつながらない。

委員)

財政負担の軽減にはつながる。

委員)

道路補修等の要望に対応できない主な理由は何か。

担当課)

財政が一番の理由である。また、職員体制の問題がある。適切な補修をするためやコストカットを図るために様々な手法の検討や調整を行っており、そのためには現場を見て状況判断や優先度合いの見極めをしなければならないが、人手が足りない。

委員)

要望に対する対応の度合は上がっているのか。

担当課)

処理できる件数に限りがあるため、要望の絶対数に左右される。要望自体は増えている。

委員)

事業の根幹は安全・安心である。快適という視点は、福津市全体ではなく自分の住む地域を基準として判断してしまう。安全・安心を確保できているのならば、優先度をつけることは必要である。

また、自分や夫の地元は福津市と都会度はあまり変わらないが、公共交通の便数は少なく、何も公共交通が通っていない地域があるなど、利便性は圧倒的に福津市の方が優れている。そのため、要望に対応できないからだめという視点では、言った者勝ちとなってしまう危険である。冷静な判断と丁寧なリサーチをしていただきたい。

事業単位では改善した方が良くと思う点もあるが、全体としてはとても努力をしていただいていると感じる。

委員)

高齢になり車が運転できなくなった際に住み続けられないと感じる。コミュニティバスを一時間に一本は運行してほしい。また、福津市のコミュニティバスは各地域に通っているが、福間駅と各地域をつなぐ路線がない。各地域の観光地と駅をつなぐ路線があれば観光にも資すると思う。

担当課)

コミュニティバスについて、一路線あたり現在従事者一人で一台を運行していただいている。そのため、便数を増やすためには二人で二台を運行しなくてはならず経費が倍増するため、財政的な問題がある。またニーズがあるのかという問題がある。実際現状でも「空気を運んでいる」と揶揄されることがある。

また、福津市としては西鉄バスや JR など民間交通の幹線路線を維持するために、そちらを優先して利用していただきたい。これまでの撤退の主な理由は赤字であったため補填することで撤退を免れていたが、現在は運転士不足が大きな問題となっているため、利用が少ないところから撤退していく。

委員)

公共交通は市民の福祉として、赤字であっても他で補填することで運営をしてほしい。乗る人がいないから無くしてよいものではないため、暮らしやすさのために対策をしてほしい。

担当課)

ふくつミニバスは現状も赤字で運行をしている。できるだけ利便性を向上させつつ、民間企業が撤退しないようバランスをとっていきたい。

委員)

家が増えたことで狭い道路に交通量が増え、離合が出来ないなど危険な箇所が増えている。どのような都市計画を行っているのか。

担当課)

人口増加に伴い交通混雑度が上がっている。パーソントリップ調査（人の移動に関する調査）によると、新たに国道3号線と旧3号線をつなぐ道路が2本程度できれば、混雑が抑えられると推計されている。しかし、新たな道路を一本つくるために用地買収等を含めて5年程度の時間、数十億円程度のコストがかかる。

下水道についても人口増加に伴い処理が必要な量が増えたため、新たな処理場を建てることも検討したが、コストを使用料として転嫁することになるため、新たな施設の建設ではなく既存の施設間で調整したいと考えている。しかし、道路混雑については新たな道路をつくる以外の解消手段がなく解消できない。

狭あい道路については緊急車両の通行問題もあるため、少しずつ改善をしている。

委員)

公共交通についてとても充実している。しかし、視点を変える必要があるのではないかと感じる。

千葉県我孫子市では、駅前を通るスクールバスや病院の送迎バスは、利用者に限らず誰でも乗れるようになっている。今後は西鉄バスだけでなく、学校や病院、スイミングスクールなどとの共同運行を検討してもよいのではないか。例えば福津市では、東海大学付属福岡高校が生徒の送迎バスを走らせている。

特に学童の児童を送るなど、必ず乗る人がいるところとコミュニティバスや共同運行などが連携するような新たな交通スタイルを形成できると良い。

また、コミュニティバスは市内でしか運行しないことが多いが、それでは今後共倒れが懸念されるため広域運行を検討すべきである。

担当課)

異業種との共同運行について、国も推進している。現在地域公共交通計画の策定を行っているため、施策として検討したい。

コミュニティバスの広域連携について、広域運行は西鉄バス等の民間企業が担い、コミュニティバスは市内で民間企業のバスが通らないところを補完するという体制をとることで、民間バス路線の撤退を防ぐべきと考えている。しかし、実際に近隣自治体から広域連携に関する提案は上がっている。

委員)

福岡は西鉄バスがあることが当然であるが、他地域ではそのような路線がない地域も多い。近いうちに西鉄バスも撤退することをシミュレーションしておいた方が良い。

委員)

道路の修繕箇所について、早期発見を行うような仕組み（特に DX）はあるのか。福岡市では市民が修繕の必要な箇所の写真を LINE で市に送ることで、発見から修繕までの時間を短くしている。

担当課)

現在でも連絡をいただいたらすぐに動く。

DX については、企業から宅配業者のドライブレコーダーを活用するという提案を受けたことがあるが、コスト的に取り入れなかった。LINE 等を活用した市民からの情報収集については、コストカットにも有効な手段である。一方で写真からどの程度の情報が読みとれるのかといった点が不明であるため、どのような形で情報を送っていただくことが最適かということを探している。

委員)

福岡市では気軽に写真を送ることができるのが良さである。専用のアカウントがあるだけで、あまりコストはかかっていないと思われるため参考にしていただきたい。

会長)

福岡市の場合、市域が広大で補修の必要な箇所の発見にかかる職員の人員をさけないのではないかと推察する。また、発見後は各区役所速やかに対応できる体制が整っていると聞く。福津市の式の状況や職員体制に合わせた方法を検討してほしい。

【後半】

担当課)

成果として、従前からの道路、施設等の維持管理に注力することで市民の安全・安心に寄与していると考えている。

公共交通については、民間路線の撤退を極力防げるよう補助やコミュニティバスの運行ルートの調整等をおこなっている。

空き家については、適正な管理を求めること、管理が難しい場合には市場に出すことを勧めることで、古い団地も含めて市場で流通させることができている。

下水道については、全ての地区に下水道管が整備された。今後は古い団地等の管の補修等を行っていく。処理についても利用者の負担を上げずにできることを検討していきたい。

また、現在降雨時の浸水予想をしており、これを元に今後計画策定、必要な整備を行っていく。既に原町地区の農業用溜池について、調整機能を持たせることを住民と合意した。福津市は海拔が低い平地に住宅地がある。平地は水がゆっくり流れることに加え、満潮時には排水がうまくできないなど、短期的に雨水がすぐに流れていかない地形であるため、一時的な貯水や調整が必要である。公園等にも調整機能を持たせてもらえるよう業者に頼むなど対策を進めている。

課題として、高齢化により地域での除草作業等管理ができない部分が増えている。

公共交通については、運転士不足や燃油高騰への対応が必要である。

空き家については、今後人口が減少する時期が来た際の対策を検討していかなければならない。できるだけコンパクトシティを目指したいが、周縁部に住むことを望む人もいるため進めることが難しい。

橋梁については維持費とのバランスを考えて数を減らしたいが、利便性の低下から合意ができず進まない。

雨水については長期的な平均降水量は横ばい、微減であるが、一日当たりの降水量は増加傾向にあるため、整備を進めなくてはならない。

委員)

コミュニティバスの改正について、市民のニーズを調査したうえで令和3年度の改正をすべきだったように思う。利用者を増やすための対策にコストをかけるべきではないか。

また市道の除草については、危険性を考えると法面以外も市が行うべきではないか。

担当課)

令和3年度の改正についても、1週間程度の乗降調査や意見交換、バス停ごとの乗降データにより調整を行った。しかし、実際には地域からのニーズとずれがあったため、方法の検討が必要であると考えている。

令和6年度の改正については概ね成果が出ていると感じている。路線変更に慣れるまでに3年程度かかるといわれているため、今後利用者が増えてくると想定している。

担当課)

市道については市が全て管理することが理想であるが、多くの要望を聞くために市民の皆さまにご協力いただける範囲でご協力いただきたい。

委員)

都市計画マスタープランを読んだが、このままでは利便性や人口移動等を鑑みても農村部は消滅してしまうと思う。これはSDGsの目標である「誰ひとり取り残さないこと」とも合致せず、福津市の良さである自然との共存もできなくなるため、移住促進等の抜本策を取るべきではないか。

担当課)

集落の消滅危機についておっしゃるとおりである。国でも集落内ではコミュニティバス等を運行、集落同士を幹線路線でつなぐといったコンパクト+ネットワークが推奨されている。しかし、福津市として現状とれる抜本策を持っていない。

抜本策とはなりえないが、空き家の利活用は移住や宿泊施設としての活用などにより地域の活性化につながると考えている。農村部ほど移住世帯をサポートする体制がある。

委員)

異常発見について、電話はかけるハードルがあること、職員の時間を取られることを踏まえるとLINEで写真を送ってもらうシステムは取り入れるべきであると思う。検討いただきたい。

委員)

福津市は観光用のレンタサイクルはあるが、シェアサイクルがない。子供が多く交通混雑が起きている地域ではシェアサイクルなど自家用車の代替手段を取り入れていけると良い。

委員)

都市計画とのかみ合わせが悪く、危険性の高い場所があることが課題と感じる

除草作業等の市民活動については、コミュニティスクールとの連携を図れば良いのではないか。福岡東中や津屋崎中ではボランティア部が発足しており、郷づくりと連携している。もし、学校側がボランティアの場を求めており、情報共有の体制を取れるのであれば教育部との連携を検討してはどうか。コミュニティスクールであるため、地域との連携が取りやすい。松林清掃はその成功例である。

委員)

未来共創センターの活用も考えられる。

委員)

情報が集まる場所があるのに利用しないのはもったいない。

加留部委員長)

行政の課題を学校や個人、市民団体、企業などの地域貢献の場として提供することでマッチングできるとよい。

また情報の出し方として、課題についていかに前向きな道筋を示せるかが重要である。

担当課)

草刈りを行ったその先を示し、やりたいと思わせるということか。

会長)

そのとおりである。

委員)

松林清掃も成果を示すことで子どもの自尊感情を高めている。そうすると子どもの方からできることはないか求めるようになる。

委員)

近年短時間の降雨による冠水が増えている。前もって冠水しやすい場所の情報を得る方法はあるか。

担当課)

前もって分かる場合は待機して対応をしている。しかし、5～10分で冠水するような場合は行政だけで対応できないため、個人で情報収集をしてほしい。

委員)

LINE等で市民から情報収集するといった方法も良いのではないか。

委員)

SNSの情報から情報収集するシステムを出している企業もある。

委員)

福岡駅周辺では一棟貸しが増えているが、広く知られていない。空き家を財産として活用していくべきと思うが、そのような空き家の活用をしたい場合の窓口はあるか。

担当課)

不動産取引にかかる話になるため、現状市役所に窓口はない。しかし、市と協定を締結している津屋崎空き家応援団はそのような活動も行っているため、窓口になってもらえるかもしれない。

委員)

都市計画区域内の空き家は流通するが、流通が難しい田舎の空き家を活用できればよい。今提携しているところはそのような場所の空き家の活用も可能なのか。

担当課)

可能である。市と協定を締結している福岡県中央古民家再生協会は、元々嘉麻市やうきは市での実績がある。

会長)

施策に含まれる事業の多くは地図に落としこむことが可能である。公共交通マップについても、古賀市は他機関との接続情報等を地図上でとても丁寧に示されているが、福津市は他機関のトップページに飛ぶだけであり不親切と感じる。地図で示されることでイメージがしやすくなるため、公共交通を底上げするために地図への落とし込みを行ってほしい。

また市民との共働について、定住人口と関係人口の間に「定住はしていないが関係人口より踏み込む」という位置づけに「共働人口」という考え方も出てきている。手伝ってほしいことを具体的にメニュー化してみてはどうか。

担当課から感想をいただきたい。

担当課)

市の状況を分かっていたいたうえでご意見をいただくことができて良かった。

手は尽くしているつもりだが満足度は低い。DX等は防災を含め、他部署と連携することでできることがあるのではないかと思った。今後検討していきたい。

3. 事務連絡

次回について、19時から開催予定だが時間に変更となる可能性がある。調整をさせていただきたい。